

E-6 乳幼児，妊婦の唾液無機燐量について

茨城大教育 津田 理子

1. 本研究は，日本において小児齲蝕罹患率の高い現状よりみて，齲蝕から小児を守るにはいかにしたらよいかの問題を検討することを目的としている。すなわち，齲蝕発生に関する諸事項のうちで，歯の周囲環境である唾液性状も重要な因子と考え，小児唾液の成分について研究しているが，抗齲蝕作用があるといわれている無機燐酸量について乳幼児，妊婦および成人の検討を生化学的に行なった。

2. 資料は，成人34名，妊婦6名，乳幼児30名について各条件のもとに唾液を採取した。実験方法はAllen-中村変法に準拠した越智の方法によった。

3. 以上による実験の成果は次のごとくであった。

1) 乳幼児の生歯のない群とある群の間には有意差はなかった。

2) 成人の平均値は食前 10.6 mg/dl，食後 12.5 mg/dl，刺激 13.6 mg/dl，で採取時の各状態間には有意差はなかった。

3) 乳幼児と成人間の無機燐量には有意差があった。(乳幼児<成人)。

4) 成人唾液では齲蝕多い群と少ない群の間には有意差はなかった。

5) 妊婦では毎回の測定値の変動がいちじるしかった。